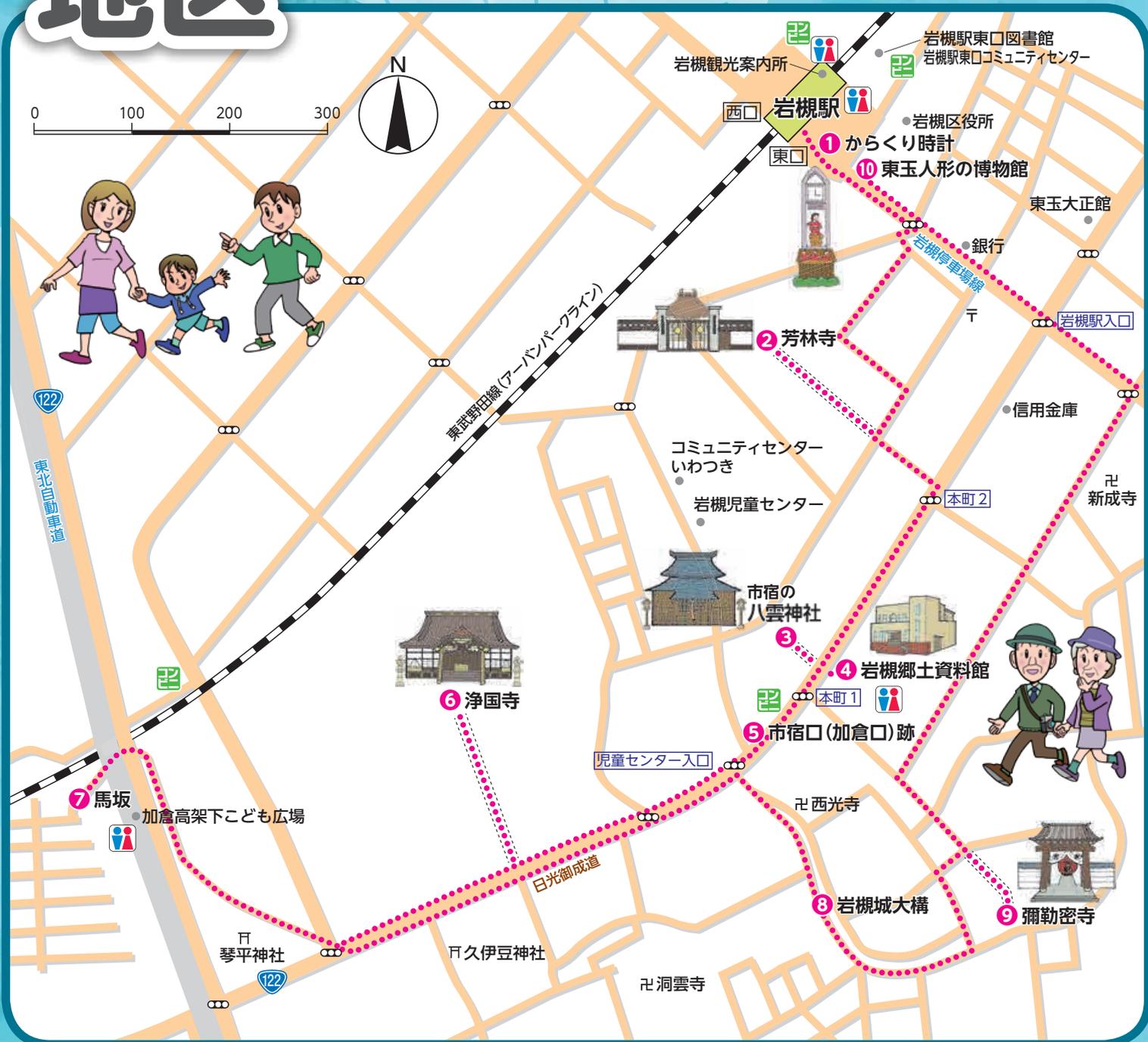


加倉地区

Kakura

市宿町と古刹を歩く

江戸時代、市神社(八雲神社)を祀り六斎市で賑わった市宿町と古刹をめぐるみませんか。また、随所に昭和初期の特徴を残す国登録有形文化財、岩槻郷土資料館を訪ねてみませんか。



..... コース トイレ コンビニ



①からくり時計

人形のまち岩槻をイメージして平成8年(1996)に作られた高さ約8mのからくり時計です。

《からくり時計演出時間》

月曜～金曜 10時、12時、15時、18時、20時

土曜・日曜 10時～15時の毎時、18時、20時 ※雨天中止



②芳林寺

曹洞宗のお寺で、太平山芳林寺といい、釈迦如来を本尊としています。

かつては東松山市にあり、太平山地蔵寺といわれていましたが、岩槻城主太田資正により現在の地に移転したと伝えられています。

その後資正の子で岩付太田氏最後の城主である太田氏資が、母の芳林妙春尼の冥福を祈るため堂塔を修造し、芳林寺と改めました。

境内には、市指定文化財の「太田氏資宝篋印塔」がある他、岩槻藩初代藩主高力清長の子、正長の宝篋印塔や太田道灌騎馬像などがあります。



③市宿の八雲神社

祭神は素戔嗚尊すさのおのみことで商売、防火の神様です。

永禄3年(1560)に岩付太田氏の家臣勝田佐渡守が市を開設したときに、これを守護する市神いちのかみとして祀られ、江戸時代は牛頭天王社ともいわれていました。

かつては、日光御成道の真ん中にありましたが、明治時代に現在の位置に移されました。



④岩槻郷土資料館

昭和57年(1982)開館。建物は昭和5年(1930)に建てられた岩槻警察署の旧庁舎です。建物の外観は装飾性の少ないものですが、内部は丸窓、庇などにアールデコ調の意匠がみられ、アーチ状の窓や丸柱などとともに昭和初期の特徴をよく残しています。

ここには岩槻の歴史や文化にまつわる様々な資料が展示されています。展示内容は、「大昔のくらし」、「岩槻の歩み」、「くらしの道具」に分けられています。主な展示物として岩槻城の模型や岩槻藩遷喬館を開いた児玉南柯の遺品などがあります。

平成28年(2016)国の登録有形文化財になりました。



⑤市宿口(加倉口)跡

岩槻城下町の出入口の一つで「市宿口」「加倉口御門」「小切所」などと呼ばれ、加倉1丁目の児童センター入口交差点付近にありました。

ここには木戸と番所があり、市宿町の住人が交代で木戸番を務めてました。



⑥浄国寺

浄土宗のお寺で、仏眼山英隆院浄国寺といい、阿弥陀仏を本尊としています。天正15年(1587)に岩槻城主北条氏房が鴻巣勝願寺第2世惣譽清厳上人を招いて開山しました。

江戸時代には、浄土宗の僧侶の学問所である関東十八檀林に定められました。

岩槻藩主阿部家の菩提所として初代正次、三代定高、そして定高に殉じた小倉與兵衛政光の墓(五輪塔)や福山藩主で幕府の老中を務めた阿部正弘が寄進した灯籠などもあります。



⑦馬坂

江戸時代の日光御成道は、綾瀬川を渡ると間もなく北に大きく湾曲して加倉村を通りました。この途中に急坂があり、馬も転げ落ちるほどだったことからこう呼ばれたともいわれています。

16世紀半ばに小田原城主北条氏政が岩槻城の太田資正を攻めた加倉巖合戦は、この辺りから見沼区の宮ヶ谷塔付近の綾瀬川が戦場と伝えられています。



⑧岩槻城大構

大構は岩槻城と城下町の周囲を取り巻く土塁と堀の総称で、岩槻城の外郭にあたります。戦国時代末期、豊臣秀吉の小田原攻めに備えて築造されたと考えられています。総延長は8kmにも及びました。

この辺りも今は住宅街ですが、かつての大構の名残をとどめる場所となっています。



⑨彌勒密寺

真言宗のお寺で、光岩山釈迦院彌勒密寺といい、五大明王を本尊としています。

戦前までは岩槻藩主永井家の墓所がありました。

関東三十六不動霊場の第三十一番札所になっており、本堂地下には、四国八十八箇所のお砂踏み(有料)があります。



⑩東玉人形の博物館

東玉は嘉永5年(1852)創業の老舗の人形店で、毎年末に発表されるその年の世相を反映した「変わり雛」が有名です。

「人形の博物館」では、人形の歴史や人形を大切にする心を伝え続ける博物館として、古今雛や五月人形、雛道具などの展示のほか、日本人が大切にしてきた五節供の行事について人形や絵本などで紹介しています。

